

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立小野小学校

【結果について】

《概要》

本校の平均正答率は、国語は60%、算数は55%という結果だった。平均正答率は、国語では全国平均よりも8ポイント、算数でも全国平均を8ポイント下回った。国語では、学習指導要領の内容別に見ると、「知識・技能」の観点で「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」において、全国平均よりも15.8ポイント下回った。また、全ての区分において、全国平均よりも数ポイント下回りました。問題形式においては、選択式で9.3ポイント下回り、近似解の選択の弱さが見受けられる。算数では、学習指導要領の領域別に見ると、「D データの活用」において、全国平均よりも13.2ポイント下回りました。ただし、無回答率が33.3ポイントと突出して高く、このことから、設問の最後にあるデータ活用の問題まで、時間的にたどり着けなかった可能性が高い。評価の観点から見ると「知識・技能」に関わる問題は、正答率が高い傾向があり、基礎的な力については高いものと考えられる。ただ回答方式が「記述式」では、どの問題においても低い正答率となっており、考えや理由を表現していくことについて苦手であると見受けられる。質問紙調査では、「自分には良いところがある」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。」等の項目で肯定的な回答が全国の回答率を大きく上回った。一方で、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目で肯定的な回答が全国平均を下回った。

《強み・弱み》

今回の調査において、全く解答しなかった児童は0人で、あきらめずに最後まで問題を解こうとする姿勢が身についている。この粘り強さが学習に対する積極的な態度を支え、落ち着いた学習姿勢に貢献している。また、基礎的な問題に対しては、公式を使って計算するなどの基本的なスキルを確実に身に付けている児童が多く、その割合も非常に高い。さらに、イメージマップの活用についても理解が深まっており、これが学習の大きな助けとなっている。特にイメージマップは国語にとどまらず、学活や図画工作、理科などの他教科でも頻繁に活用されており、児童たちが日常的に使い慣れているため、学びの幅を広げる一助となっている。

課題として、まず文章表現が苦手である点が挙げられる。児童たちは自分の考えや意見を文章にまとめる際に、適切な表現を選ぶことが難しく感じる人が多い。また、文中で漢字を使うことが苦手な児童も多く、漢字の正しい使用に課題が見られる。さらに、情報を整理する力が、まだまだ不足しており、特に不要な情報を取捨選択し、必要な部分だけを抜き出す力が乏しい傾向がある。そのため、聞かれていることに対して的確に答えることが難しい場面が多く、質問の意図を正確に把握し、適切な回答をする力を育てることが今後の課題となっている。

【指導の充実に向けて】

『小野小スタンダード』

課題発見 子どもと一緒に設定した具体的なめあてをもって学習を進めます。

見通し 45分の授業や単元の流れに見通しを持ち、明確なゴールを意識して学習を進めます。

学び合い 言語活動を重視し、子ども同士の意見交流や話し合いを中心に据えて学習を進めます。

板書 45分の授業の流れが視覚的にとらえられる板書によって学習を助けます。

ふり回り 設定しためあてに立ち返って学習をふり返ることにより、成果を確実なものにし、課題を次の学習に生かします。

◇上記の『小野小スタンダード』に沿った授業改善に引き続き取り組み、子どもの学習意欲を高め、子どもが充実感を得られる授業を目指します。

◇全学年で「漢字の広場」の学習を充実させ、漢字学習や文作りなどの言語活動の学習改善を図ります。

◇解き方、考え方などの学習のあしあとがわかるように整理し、自分の考えを説明できる児童を目指し、学習指導を行います。

◇校内研究やOJT研修を活用して、全教職員の指導力向上を目指します。

◇ご家庭の皆様と連携しながら、児童の学力の定着を目指します。